

高温時の専用活力剤

夏の活緑

サマーストレス
(Summer Bentgrass Decline)

1Kg×20

サマーディクライン

ベントグラスなどのC3型芝草は、高温や紫外線に対する感受性が高く、光合成に関与している炭素固定系の酵素(リビュロース1,5-ニリン酸カルボキシラーゼなど)の活性低下を招き、地中温が27°C以上になると新根の発生が無くなり、既存の根も衰えて来る。更に30°Cを越えるとこの傾向は顕著になり、35°C以上になると完全に機能を失活してしまう。…………因みに、気温が30°Cより高くなると、地中温は日中、表層で35°Cを越えてしまうことが多い。…………

特に、熱帯夜で夜間の地中温が下がらないと、呼吸による炭水化物の消耗が激しく、栄養不足から浅根になってしまう。高温下での「呼吸対光合成」の比率は、ベントグラスで4~12倍、L-93で4~5倍と言われている。

加えて、日中の頻繁な散水が土中の酸素不足を招き、嫌気的な根圏では根の呼吸障害が現われて来る。これにより、根の先端より徐々に枯れ上がり、来てしまう。

- ① 貯蔵栄養(炭水化物)の飢餓状態になっている。
- ② チッソ代謝系の破壊による、組織内のアンモニアの有害レベルまでの増加が見られる。
- ③ 脂質の過酸化の指標である「マロンジアルデヒド」の蓄積が見られる。
- ④ 根の活力が失われていて、水分も養分も根から吸収できなくなっている。

このようになる前に、サマーストレスを回避することが肝要です。

**夏専用の活力剤です。高温乾燥栄養不足に！
草勢の回復、擦切れ、色出しに最適です。
秋のスタートを良くします。**

サマーストレスの回避

- ①猛暑になる以前に、コアリング等で土壤の浸水性、通気性を高めておくこと。
- ②猛暑の中での散水は避けること。加湿にならないよう日中の適宜なシリングを行なうこと。
- ③低刈りを避けること。ペンクロスベントで5.0mm以上L-93で4.0mm以上の刈り高が望ましい。
- ④チッソの施用量を減らし、「夏の活緑」「バイオ補酵素」の使用によって、草勢回復、葉色回復を行なうこと。
- ⑤サッチ層を12mm以下に維持するよう「ブンカイザー」などを併用すること。

成 分

糖類の補給

有機酸類	クエン酸回路より補給
糖質	ブドウ糖、トレハロース、他各種

ミネラルの補給

ミネラル	鉄、マグネシウム、他各種
------	--------------

アミノ酸の補給

アミノ酸	アスパラギン酸、グルタミン酸、他各種
------	--------------------

使用方法

1m²あたり1g～2g、水に溶かして使用して下さい。(1Kgで500m²～1000m²に使えます。)

1月に1回～2回の葉面散布をして下さい。

多くの殺虫剤、殺菌剤との混用が可能です。(但し、強アルカリ剤との混用は避けて下さい。)

お問合せ先・販売店

バイオビジネス
普及会